

【京都市PTA連絡協議会会長賞】

「バリアフリーの大切さ」

京都府立園部高等学校附属中学校 1年

松山 由慈



私の住んでいる地域はあまり都会ではありません。最寄り駅にはスロープやエレベーターがなく、高齢者や赤ちゃんを連れている人、車いすの人が利用するには不便です。従って、何度も階段を苦勞して上がっている人やあきらめている人を見かけたことがあります。ですが、一つとなりの駅に行くと、スロープとエレベーターがあり、バリアフリー化されているため、高齢者や車いすの人たちは、わざわざその駅まで行くことが多いそうです。

バリアフリーとは、障害者を含む高齢者などの社会的に不利な人が、社会生活に参加するうえで生活の支障となる物理的な障害や、精神的な障壁を取り除いた状態を指す言葉だそうです。バリアフリーの種類には、公共施設でのエレベーターやスロープ、車いすでも通れるような幅の広い通行スペースなどが挙げられます。

しかし、私は、今の状態ではまだまだバリアフリーの設備が足りないと思います。なぜなら、バリアフリーの設備が足りないことで高齢者や車いすの人達、ベビーカーを押している人達が、一人で自由に外出がしにくいのでは、と感じたからです。母がアメリカに行った時に、車いすの人が自分でバスや電車を乗り降りしていたのを見たそうです。しかもアメリカには、高齢者や車いすの人用の道路がたくさんあるそうです。お店も十分なスペースがあって、車いすでも入りやすいようになっているそうです。しかし、日本では、いちいち運転手の方や、駅員の方の力を借りてバスや電車に乗らなければならないことが多いです。母は、私が小さい時、バリアフリー化されていない駅で、私を抱え、荷物を持ち、ベビーカーを抱えて階段を上がったたり下ったりしないといけなかったことがあります。しかたがない時は、自分で駅員さんに声をかけて手伝ってもらわないといけませんでした。ベビーカーのまま入れないお店も多くて、困った事もありました。もし、私がそのような高齢者や車いすの方の立場だったり、赤ちゃん連れの人だったら、もっと自由に動きたいけれども、係りの人に毎回声をかけることも気を遣うし、バリアフリーの設備が少ないので、外出は控えようと思います。だから、そのような人達が、一人だとしても、電車やバスなどを利用する事ができたら、行動範囲が広がり、より豊かな社会生活を送ることが出来るようになると思います。

公共施設でのバリアフリー化が進んで、車いすの人がより自由に活動できるようになれば、一人で学びたいことがある学校へどんどん通学したり、自分の能力をより発揮できる仕事に就く機会も増えるようになるのではないのでしょうか。仕事をすれば、高齢者や車いすの人達、赤ちゃん連れの人たちが、旅行などもっと自由に行けるようになれば、いろんなところで買い物にいたり、食事をしたりするようになり、お金を使うようになるでしょう。そのためにも、私はバリアフリーの設備を更に増やしていくような改善が必要であると思います。

もちろん、まったく手を貸さないという事ではなく、必要な時は、自然と手を差し伸べてサポートをすることも大切です。車いすの方が一人で行動されるときには、少し余分に時間がかかることも多いと思いますが、そのことにイラついたりせず、当たり前のこととして受け止める心を持たなくてははいけません。母が見たアメリカのバスや電車では、車いすの方のために、乗降に少し時間がかかったり車内でスペースが必要となった時も、周囲の人たちは当然のこととして、時間を待ち、スペースを空けるようにして過ごしていたそうです。私はこれを「心のバリアフリー」だと思います。物理的なバリアフリーと、心のバリアフリーを同時に持つことが出来れば、いろんな立場の人たちが、安心して気持ちよく過ごせる社会になっていくのではないのでしょうか。設備にはお金がかかりますし、心のバリアフリーには、理解を深めるための知識が必要でしょう。でも自分たちも、車いすが必要になるかもしれません。自分たちの事とらえて、物理的なバリアフリー、心のバリアフリーを増やせるようにしていきましょう。